

平成28年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

- 日時：平成29年3月3日(金) 13:00～16:30
- 場所：さいたま新都心合同庁舎1号館 2階 講堂
- 主催：国土交通省 関東地方整備局
- 参加者：126名
- プログラム：

1. 開会・関東地方整備局 大西局長挨拶
2. 発表
 - ①城西国際大学(道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携)
 - ②茨城大学(道の駅「常陸大宮」との連携)
 - ③いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム
(道の駅「ひたちおおた」との連携)
 - ④松本大学(道の駅「中条」との連携)
 - ⑤長野大学(道の駅「あおき」との連携)
 - ⑥帝京大学(道の駅「甘楽」との連携)
 - ⑦佐野短期大学(道の駅「どまんなか たぬま」との連携)
 - ⑧跡見学園女子大学(道の駅「もてぎ」との連携)
 - ⑨立正大学(道の駅「めぬま」との連携)
 - ⑩立教大学(道の駅「いちごの里よしみ」との連携)
 - ⑪淑徳大学(道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携)
 - ⑫城西大学(道の駅「おがわまち」との連携)
3. 参加大学代表者による意見交流
4. 記念撮影・閉会

■概要：

国土交通省では、全国各地で、道の駅と大学との連携を実施しています。

この取り組みは、地域の魅力が集まる道の駅と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育成や地方創生にも寄与することが期待されているところです。

関東地方整備局管内においては14大学と連携し、道の駅と大学生の交流により、色々な成果がでてきているところです。今回、各取組みの成果を共有するとともに学生同士の交流を深めることを目的に、昨年度に引き続き2回目の成果発表交流会を開催しました。



【大西局長挨拶／交流会会場の様子】



①城西国際大学と道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携

【発表課題】

ゆったりとした時間を過ごすための空間演出に向けたプロジェクト
～24h休憩所の情報発信強化と海辺の魅力を活かしたイベントの創出～

【発表概要】

・道の駅の魅力向上と滞在時間延長による道の駅の活性化を目指し、レストランメニューのリデザイン、24時間休憩所の情報館化、新規クルージング企画を提案したが、初めての体験で大変であった。



成果発表の様子

②茨城大学と道の駅「常陸大宮」との連携

【発表課題】

アリーナ社会論を援用した道の駅との連携報告

【発表概要】

・地元で忘れられていた「竹堤」を地域資源として見直すことで、整備により発生する廃竹材を有効活用した、七夕祭や竹あかりまつりを開催した。
・アリーナ社会論に基づき、道の駅で地域の方々が役割をもってまちづくりをしていくことを実践できた。今後、さらに規模を拡大してまちづくりに貢献したい。



成果発表の様子

③いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムと道の駅「ひたちおおた」との連携

【発表課題】

道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

【発表概要】

- ・道の駅「ひたちおおた」だけに止まらず、県北6市町を巻き込んだ「県北冬の物産展」を企画・開催し、県北6市町のPRに貢献した。
- ・今後は、商品開発や広報活動を進めると共に、他の道の駅と連携したイベント開催、旅行会社と提携したツアーの企画等も実施していきたい。
- ・コンソーシアムによる活動によって、多様な視点から課題に取り組むことができたことがよかった。



成果発表の様子

④松本大学と道の駅「中条」との連携

【発表課題】

やまんば(88)からの贈り物 ～中条(なかじょう)のお宝探し～

【発表概要】

- ・道の駅「中条」と協働し特産商品「笹おやき」の新パッケージを開発し、販売促進に貢献した。
- ・地元イベント「むしくらまつり」に参加し、ダンスイベントなどを企画・実施し好評を得た。
- ・今後は、地元特産品「西山大豆」を活用した商品開発やカフェの設置、道の駅「中条」の広場を活用して子供から高齢者まで幅広い年齢層を対象としたイベントの開催を目指したい。



成果発表の様子

⑤長野大学と道の駅「あおき」との連携

【発表課題】

青木村でしか栽培されていない蕎麦「タチアカネ」
を使った蕎麦のフルコースの考案について

【発表概要】

- ・地域活性化を図るため、蕎麦粉など地元食材を出来る限り使用したイタリアコース料理を開発した。
- ・今後は青木村の方々と共同で販売可能なメニューに改良して、道の駅の来訪者に提供する予定である。
- ・地域の自然や特産品に触れて、青木村への関心が高まったことから、今後も地域活性化を図る活動を続けていきたい。



成果発表の様子

⑥帝京大学と道の駅「甘楽」との連携

【発表課題】

道の駅『甘楽』との連携
～まち歩きビンゴプログラムの商品化に向けて～

【発表概要】

- ・道の駅を「まち歩き観光」の玄関口として位置づけ、地域回遊の促進を図る目的で、まち歩きビンゴの商品化を目指した。
- ・併せて、地域マスコットの認知度向上と道の駅での弁当販売の促進を目的として、「かんらちゃん弁当」を企画・開発した。
- ・失敗を恐れずに挑戦し、失敗からたくさんを学んだ。
- ・得られた知見を後輩に受け継ぎ、今後も連携を続けていきたい。



成果発表の様子

⑦佐野短期大学と道の駅「どまんなかたぬま」との連携

【発表課題】

道の駅「どまんなかたぬま」と佐野短期大学の連携企画事業

【発表概要】

- ・総合キャリア教育学科の各専門フィールドで学んだ学習成果を活かし、商品開発や子どもから高齢者まで楽しめるイベント等を計画した。
- ・道の駅利用者アンケートの結果を基に、福祉的視点での施設改善提案や児童虐待防止運動等の社会貢献活動を実施した。



成果発表の様子

⑧跡見学園女子大学と道の駅「もてぎ」との連携

【発表課題】

目指せ！！日本一の道の駅！！道の駅もてぎで学んだ地方創生

【発表概要】

- ・女子大生目線、外モノ目線から魅力を再発見、改善点を発見し、日本一の道の駅を目指した提案を行った。
- ・道-1グランプリにおいて、客層を踏まえたPRを行った結果、グランプリを受賞し、茂木町のPRに貢献することが出来た。



成果発表の様子

⑨立正大学と道の駅「めぬま」との連携

【発表課題】

道の駅「めぬま」と国宝「妻沼聖天山」を核とした地域活性化

【発表概要】

- ・妻沼地区の魅力を発信するパンフレットやPR動画を制作すると共に、外国人旅行者の誘致を目指し、体験型観光ツアーを企画
- ・立案し、外国人留学生を対象としたモニターツアーを実施した。
- ・今後、モニターツアーの事後アンケート結果を分析し、今後の活動につなげたい。



成果発表の様子

⑩立教大学と道の駅「いちごの里よしみ」との連携

【発表課題】

いちごの里よしみ × 立教大学連携事業成果報告2016

【発表概要】

- ・道の駅を地域コミュニティの核として位置付け、地域内交流により地域住民の地域への愛着と住民間の絆を向上させることを目的として、よしみ手作り夏祭りを企画・実施した。
- ・今後も、地域への愛着・つながりを感じてもらえるような取組を継続して行きたい。



成果発表の様子

⑪ 淑徳大学と道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携

【発表課題】

『もう一品買ってもらおう』工夫と来訪者を介した情報発信

【発表概要】

- ・交通手段、年齢層、来訪目的が異なる多様な利用者の特性を踏まえて、道の駅の魅力向上策の提案に取り組んだ。
- ・道の駅の誘客促進や、道の駅周辺の案内につなげるため、若年層に訴求出来るSNSやBlogを活用した情報発信に取り組んだ。
- ・現在、鉄道会社に、鉄道と連携した取組を提案しているところであり、今後も継続して提案していきたい。



成果発表の様子

⑫ 城西大学と道の駅「おがわまち」との連携

【発表課題】

地域資源を活用した小川町ブランド商品の開発と
小川町の人と風土に着目した地域プロモーション動画の制作

【発表概要】

- ・小川町の地域活性化を目指し、地域プロモーション動画の制作と地域ブランドの商品開発に取り組んだ。
- ・今後も引き続き、地域プロモーション動画の制作に取り組むと共に、提案した商品の販売に向けて取り組んでいきたい。



成果発表の様子

■参加大学代表者による意見交流

【意見交流の主な内容】

■失敗や反省点について

- ・地元特産の蕎麦粉を使用したイタリアンコースの開発は、試行錯誤の連続で何度も失敗をした。【長野大学】
- ・まち歩きビンゴ大会を開催した際、台風接近による悪天候のため人出が少なく、景品等が大量に余った。【帝京大学】
- ・情報発信が重要と考えており、今年度イベントを開催した際にも、facebookによる情報発信を行えば良かった。【茨城大学】
- ・道の駅と大学が遠いこともあり、道の駅へあまり行く事が出来なかった。【跡見女子】

■大学連携の取組において苦労した点について

- ・最寄りの鉄道駅から道の駅へはバスがあるが、「移動過程も町の調査」と発想を変えて、徒歩で通った。【城西大学】
- ・大学から道の駅までが遠くて移動が大変であったが、道の駅の特産品などの魅力で癒やされた。【淑徳大学】

■どのような場面でそれぞれの専門性を活かしたか教えて欲しい。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム】

- ・マーケティングを学んでいるが、商品開発や販売といった実践を通じて、理論をより深く理解することが出来た。【松本大学】
- ・食文化を手段として観光地に人を呼び込む手法を、道の駅に適用することができた。【立教大学】
- ・地理学科の現地調査を基本とする学問姿勢に従い、地域の埋もれた観光資源を発掘・商品化することができた。【立正大学】
- ・観光学を学んでおり、クルージング企画においてどのようなガイドが乗客に興味を持たせることが出来るかを実践的に考える事が出来た。【城西国際大学】

■本交流会を通して感じたこと

- ・SNSは、とても良い情報発信ツールと感じたので、佐野短期大学でも、実施したいと感じた。【佐野短大】

